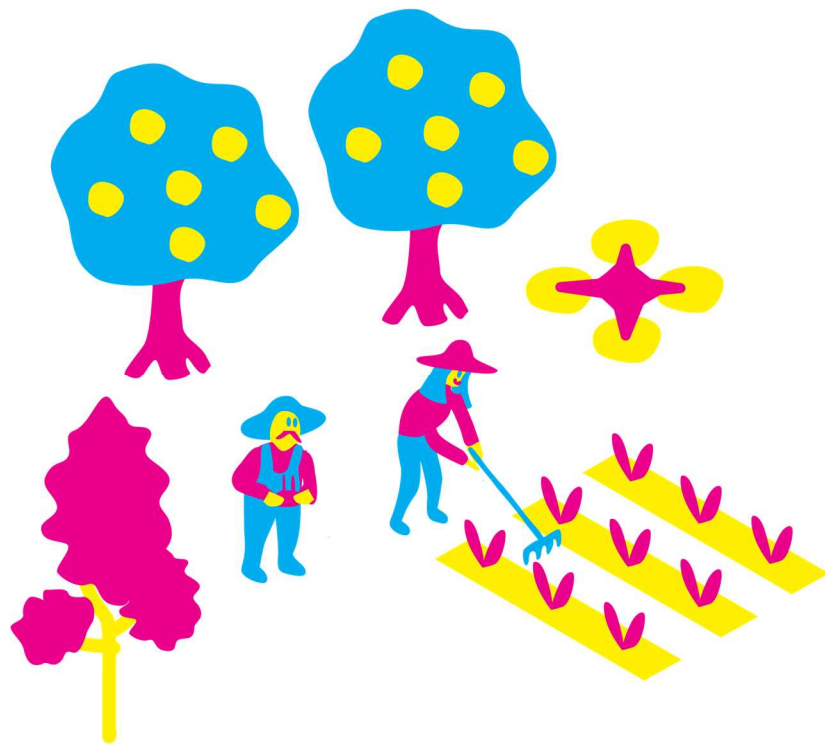


今治市デジタル未来戦略

(別添1) 進捗管理表 (令和6年度)



- 1 今治市デジタル未来戦略 基本戦略
- 2 今治市デジタル未来戦略 実施戦略
- 3 (別添1) 進捗管理表 (各年度)
- 4 (別添2) デジタル関連用語集

今治市役所 総合政策部 未来デジタル課

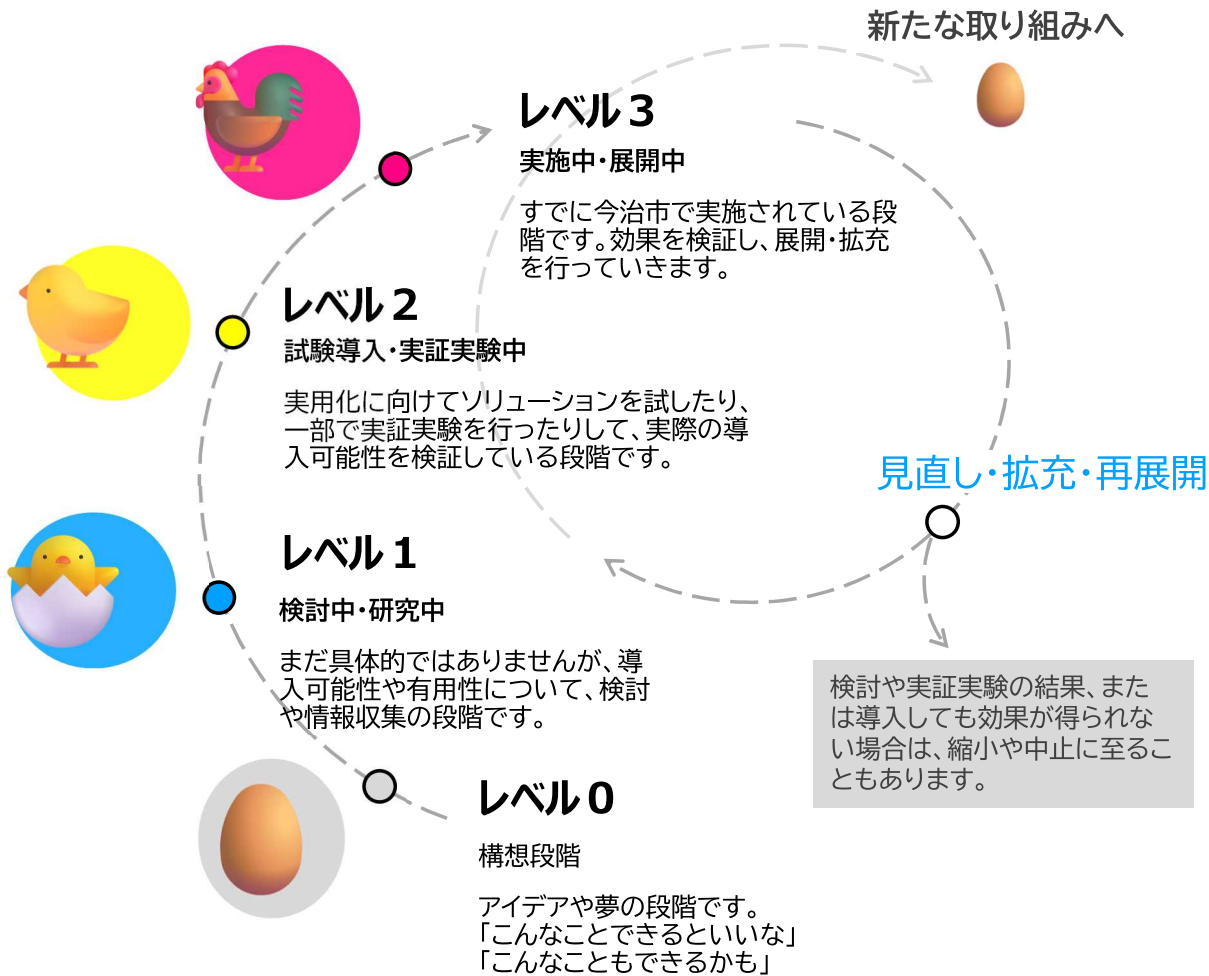
〒794-0081

愛媛県今治市別宮町1丁目4番地1

電話 0898-36-1509 (直通)

e-mail mirai@imabari-city.jp

(別添 1) 進捗管理表



実装レベルの考え方

各分野における今治市での実装(導入)状況の目安として、0～3の4段階のレベルで表現しています。

実装状況は毎年度、進捗を確認します。検討や実証を行う段階で、別の分野に分歧したり、複数の分野を集約したり、あるいは中止や見直しを行うこともあります。

レベル		状況
0		構想段階
1		検討中・研究中
2		試験導入・実証実験中
3		実施中・展開中

「 構想段階」や「 検討中・研究中」のものについては、技術や法令の制限や、今治市への適正の有無などによって、必ず実装できるとは限りませんが、将来的な実装を想定して構想・研究しているものです。

（別添 1）進捗管理表

分野番号

各分野の詳細については「実施戦略」で説明しています。

大分野		中分野	方針	分野番号
市民生活SDX	デジタルで 「ひとりひとり」が 輝く今治をみんなで創出	コミュニティのDX	ICTを活用した新しくも懐かしいコミュニティづくり	1-1
		健康・医療・介護のDX	デジタルが支える健康といつまでも自分らしい暮らし	1-2
		子育てのDX	子どもを守り育むICTネウボラによる切れ目のない支援	1-3
		モビリティのDX	どこへでも「行ける」「届く」暮らしを中心にしたモビリティサービスの充実	1-4
		教育のDX	ICTで「誰もが」「いつでも」「どこからでも」自分らしく学べる教育環境の整備	1-5
		環境・エネルギーのDX	デジタル技術で豊かな自然環境を次世代につなぐ	1-6
		文化・スポーツのDX	バーチャルでつなぐ今治と世界の文化・スポーツ	1-7
		社会参加のDX	デジタルで支え合うインクルーシブ社会の実現	1-8
		デジタルデバйд対策	誰一人取り残されないデジタル社会の実現	1-9
まちづくりSDX	デジタルで 市民の命を守り 「商いができる」今治の実現	産業のDX	デジタルによる産業のイノベーションとDX人材の育成	2-1
		商流のDX	今治の「いいもの」を世界に広げるデジタルマーケティングとバーチャル商店街	2-2
		人流のDX	デジタルを活用したリアルなにぎわい拠点づくり	2-3
		空間距離のDX	しまなみ海道「ゼロ距離」生活の実現	2-4
		インフラのDX	デジタルを活用したスマートなインフラ投資とインフラのデータ化	2-5
		観光のDX	デジタルとリアルの相乗効果で観光力をグレードアップ	2-6
		移住のDX	心地好く「住む」リモートで「働く」日常がワーケーションな移住先進地	2-7
		農林水産業のDX	農林水産業のスマート化による安定した生産と就業者の確保	2-8
		防災・安全のDX	デジタルを活用した防災力強化と安全対策	2-9
行政SDX	「市民が真ん中」の視点で 超スマート自治体へ 体質変革	住民サービスのDX	時間や場所にとらわれずワンストップでサービスが受けられる手のひら市役所	3-1
		情報発信のDX	クロスメディアによる情報発信とプッシュ型で最適な情報提供	3-2
		業務改革のDX	業務のデジタル化による生産性向上とスマートな行政運営	3-3
		働き方のDX	時間や場所にとらわれない生産性の高い新しい働き方への転換	3-4
		データ連携のDX	たとえばマイナンバーによる統合IDの実現などデータ連携プラットフォームの構築	3-5
		データ活用のDX	オープンデータの活用による官民サービスの高度化	3-6
		通信環境のDX	DXの基盤となる利用しやすい情報通信環境の整備	3-7
		DX人材の育成	スマート自治体の実現に向けたDX人材の育成	3-8
		DX推進のためのセキュリティ対策	DXによる利便性の向上とセキュリティ確保の両立	3-9

今治市デジタル未来戦略 別表 1 進捗管理表：令和 6 年度

番号	取組名称	目指す未来像	活用可能な技術等の例	実装 レベル (R4)	実装 レベル (R5)	R6年度現在		実装レベル目標			分野番号	関連リンク	参照する計画等
						実装 レベル	取組状況	R7	R8	R9			
1	地域コミュニティのデジタル活用	SNSやWeb会議等を活用して、自治会など地域コミュニティの活性化を図ります。	SNS、Web会議、スマホ教室	2	2	2	市内各地区在住者や地区自治会長、シルバー人材センター会員、聴覚障がい者を対象としたスマホ教室の開催により、地域コミュニティのデジタル活用を推進しています。	2	3	3	1-1		
2	コミュニティのデジタル拠点づくり	地域活動における拠点づくりにデジタルの可能性を探ります。	オンライン公民館、メタバース、SNS	0	1	1	今治市の公式SNS等を通じて公民館活動の情報発信を行いました。 また、今治でのひら市役所を利用し、一部の公民館主催講座をオンライン申込できるようにしました。	1	1	1	1-1		
3	データヘルスの推進	医療に関するビッグデータを活用し、レセプトや健診結果などをAIで分析することで、今治市国民健康保険被保険者の健康課題を把握し健康づくりに役立てます。	AI、厚生労働省ナショナルデータベース、国保データベースシステム	1	1	1	健診・医療・介護に関するビッグデータを活用・分析を行い、健康づくり事業に取り組んでいます。被保険者の医療や健診データからの分析ツールを用いてハイリスク者を把握し、生活習慣病重症化予防事業に取り組んでいます。 AI分析については、情報収集を進めています。	1	1	2	1-2	https://www.city.imabari.ehime.jp/hoken/parts/hokenkeikaku.pdf	第3期 今治市保健事業実施計画（データヘルス計画）
4	デジタルを活用した健康づくり	健康づくり応援ポイント事業などにデジタルを活用し、市民が楽しみながら健康づくりに取り組める仕組みを作ります。	健康マイレージアプリ、タブレット・スマホ	1	0	1	愛媛県において、県・市町で連携し、全県民を対象とした健康アプリの運用が開始され、市の健康づくり応援ポイント事業と連動した取り組みの検討を進めています。	3	3	3	1-2		
5	医療・介護等への技術活用	遠方に住まう高齢家族の見守りや、要介護者のベッドからの転落防止、認知症による帰宅困難高齢者の早期発見などにデジタル技術を活用し、要支援・要介護者の安全な暮らしと、介護負担の軽減を図ります。	IoT技術による見守り、人感センサー、データ連携基盤	2	0	1	「いまからネット」でのバーコードシール配布を継続しつつ、スマートフォンアプリを活用しての認知症高齢者等の見守り体制の整備について、情報を集めています。	2	3	3	1-2	https://www.city.imabari.ehime.jp/kaigo/imakaranet/	
6	遠隔診療の導入推進	通院等にかかる市民の負担軽減および利便性向上を図るために、医療機関の遠隔診療導入を推進します。	遠隔診療	3	3	3	関前地区でマルチタスク車両によるオンライン診療を実施しています。	3	3	3	1-2		
7	介護認定手続きのデジタル化	介護認定の訪問調査やその後の審査をデジタル化することで手続きにかかる時間を短縮すると同時に審査のばらつきをなくし、介護の必要な方をすみやかにサービスにつなげます。	タブレット、AI、kintone、sidebooks	2	1	1	令和7年度にペーパーレス会議システム等の導入を目指し、情報収集及び関係機関との意見交換を実施しています。 訪問調査へのタブレット導入については、昨年度同様で保留状態です。	2	3	3	1-2		
8	アプリ等を活用した子育て支援	子育て支援アプリ「いまばり子育て応援ナビ」にて、予防接種時期のプッシュ型通知や、子育てに関する情報発信を行っています。 この他にも機能の拡張を検討していきます。	子育て支援アプリ	3	3	3	親子向けイベントの情報発信、母子健康手帳の交付の予約などをアプリ上で行っています。 令和7年3月現在：登録件数3,341件	3	3	3	1-3		

※ 実装レベルは、おおむね次の段階を示しています。 0：〇 構想段階 1：🔄 検討中・研究中 2：🔄 試験導入・実証実験中 3：🏆 実施中・展開中

番号	取組名称	目指す未来像	活用可能な技術等の例	実装 レベル (R4)	実装 レベル (R5)	R6年度現在		実装レベル目標			分野番号	関連リンク	参照する計画等
						実装 レベル	取組状況	R7	R8	R9			
9	貧困家庭支援	食料品の支援が必要な家庭をサポートするフードシェアリングやコミュニティフリッジ（*93）（公共冷蔵庫）、プライバシーを確保した相談事業などにデジタル技術を活用します。	コミュニティフリッジ、オンライン相談	0	0	1	技術や制度について情報収集を進めています。	1	1	2	1-3		
10	オンライン育児相談	チャットアプリや通話アプリを活用し、育児相談を行います。	LINE、Zoom等のチャット・通話アプリアセスメントツール	2	3	3	ZOOMによるオンライン相談体制を整えています。	3	3	3	1-3		今治版ネウボラ「未来子育て支援機構（仮称）」創設計画
11	母子保健、福祉、教育の情報共有	電子カルテなど、妊娠期から18歳までの情報を関係機関で共有できるシステムと、手続き・相談・情報提供がワンストップで可能な環境を構築し、切れ目のない子育て支援や虐待対応等を行います。	電子カルテ、子育て支援アプリ	1	1	2	「健康かるて」など住民の健康健康情報を管理するシステムを利用し、関係する部署で情報を共有しています。	2	2	2	1-3	https://www.city.imabari.ehime.jp/neuvola/kodomokeikaku/	今治市こども計画
12	保育所等のICT化の推進	保育所等における事務の効率化や保護者とコミュニケーション機能の強化を図ることによって、保育体制の充実を図ります。	保育所ICTシステム	2	3	3	私立保育所等に対し、保育システムと連携した午睡チェックシステムの導入を支援し、更なる体制強化を図っています。	3	3	3	1-3		
13	地域交通問題の解消	島しょ部や山間部など人口減少地域においても、自動運転バスやライドシェアなどを活用し、交通ネットワークを維持します。	自動運転、ライドシェア	2	2	3	チョイソコおおみしまについて、令和4年度の実証実験を経た後、本格運行へ移行しています。	3	3	3	1-4		
14	商品や薬の無人配送	医療機関のない集落や、災害によって交通が遮断された地域に日用品や薬など必要な物資を空から届けられるよう、ドローンによる配送を行います。	ドローン、無人走行車両	2	2	2	今治市近未来技術実証ワンストップセンターおよび実証実験プロジェクト事業費補助金による実証実験実施事業者支援を行っています。	2	2	2	1-4	https://www.city.imabari.ehime.jp/simingamannaka/kinmirai/onestop/	地域再生計画
15	バスや船舶の運航状況をリアルタイムで把握	GPSを活用し、リアルタイムで公共交通機関の動きを把握できるようにすることで、交通手段の少ない地域のバス待ちの不安をなくし、住民や観光客の移動をスムーズにします。	GPS、交通アプリ	0	0	1	他の地域の事例を研究中です。	1	1	1	1-4		
16	オンライン教育の実施	さまざまな事情で学校に通学できない子どもたちも、オンラインで教室や教師とつながることで、どこからでも学ぶことができる環境を整えます。		3	3	3	教室での授業を県の事業になるサポートルームで視聴できるよう、関前地域を除く全小中学校でICT面でのハード整備を行っています。また教育支援センターにおいて、ICTを活用し、学校に通うことが困難である児童生徒にオンライン授業配信等の学習支援を実施しています。	3	3	3	1-5		
17	児童のネットワーク学習環境の整備	学校に来ることができない子どもたちもオンラインでどこからでも学ぶことができるよう、通信やオンライン学習の環境を整備します。	情報通信機器（USB Dongle）等	3	3	3	家庭内に通信環境のない児童生徒や長期入院などによりオンライン学習に支障が発生する児童生徒への情報通信機器の貸し出しを行っています。	3	3	3	1-5		

番号	取組名称	目指す未来像	活用可能な技術等の例	実装 レベル (R4)	実装 レベル (R5)	R6年度現在		実装レベル目標			分野番号	関連リンク	参照する計画等
						実装 レベル	取組状況	R7	R8	R9			
18	AIを活用した個人学習	個々の学習履歴に応じてAIが最適な学習メニューを提案するなど、個人に合わせた学びを選択できるようにします。	AI型ドリル機能	3	3	3	中学校生徒における学力の底上げと確かな進路保障を目指すため、結果に基づき最適な動画やドリル教材を提案するオンライン授業形式の学習支援サービスを利用しています。また小学校児童にはAI型ドリル機能を活用し、主体的に個別最適な問題に取り組むことができるデジタル教材を利用して、児童の個に応じた学びの充実と学力向上を図っています。	3	3	3	1-5		
19	他地域や海外との交流学习	オンラインで市外や国外とつながり、多様な人々と交流しながら学ぶことでグローバルな視点を育みます。		3	3	3	研究授業の中で市外や国外の人材とオンラインでつながり、多様な人々と交流しながら学ぶことでグローバルな視点を育んでいます。	3	3	3	1-5		
20	デジタルを活用した3R推進	デジタル技術をごみの分別や回収等に活用し、ごみの減量や3R（リユース、リデュース、リサイクル）を推進します。	ごみ分別・減量アプリ	3	3	3	ごみ分別アプリ「さんあ〜る」に対応して、分別回収をサポートしています。 ごみ分別アプリ「さんあ〜る」登録者数17,681人（R7.3月現在）	3	3	3	1-6	https://www.city.imabari.ehime.jp/recycle/app_3R/	
21	エネルギー使用量の可視化	家庭のごみ排出量やエネルギー消費量などがデータで可視化されることで、住民の環境意識の向上につなげます。		0	0	1	今治市役所の温室効果ガスの排出量を毎年度今治市HPに掲載しています。 また、個人の生活に係る二酸化炭素排出量が測定できる愛媛県「デカボmyスコア」の運用が開始され、県・市町で連携して推進しています。	1	1	1	1-6		
22	環境エコアクションの推進	AIによるフードロス削減や、環境配慮行動へのインセンティブ付与などにより、自発的なエコアクションを推進します。	インセンティブ付与のためのポイントアプリの導入	0	0	1	i.i.imabari推進課のデジタル地域通貨の実証実験に参加し、イベントで行われるビーチクリーンに参加した人に対して地域通貨を発行しています。	1	1	1	1-6		
23	DX博物館	デジタルアーカイブや、XR（*94）技術を活用し、今治の伝統文化や文化遺産を全世界に発信します。また、バーチャルの世界で、現実には見ることのできない歴史や科学を体験できる場を作ります。	VR、AR（*95）、MR（*96）、メタバース、デジタルアーカイブ	2	2	2	「今治城AR」アプリやしまなみ海道周辺の文化施設や観光スポットを謎解きしながら巡るウェブコンテンツ「しまなみアートミュージアム・オンラインツアー」を継続するとともに、大三島美術館、吉海郷土文化センター（野間仁根バラのミュージアム）、玉川近代美術館において、プロジェクションマッピングによる作品展示実施しています。	2	2	3	1-7	https://www.city.imabari.ehime.jp/museum/imabarijo/event/oshirase.html?p=1121 https://www.city.imabari.ehime.jp/bunka/info/001/	
24	eスポーツの普及推進	どこでも、誰でも参加できるeスポーツを通じて、社会参加や身体機能の向上などを目指します。	eスポーツ	1	3	3	第36回全国健康福祉祭ととり大会におけるeスポーツの愛媛県予選会、各イベントにあわせたeスポーツ体験会、プロeスポーツプレイヤーによる講演会等を実施しています。	3	3	3	1-7		

番号	取組名称	目指す未来像	活用可能な技術等の例	実装 レベル (R4)	実装 レベル (R5)	R6年度現在		実装レベル目標			分野番号	関連リンク	参照する計画等
						実装 レベル	取組状況	R7	R8	R9			
25	デジタル技術による障がい者サポート	分身ロボットによる外出や就労の代行や、ハンディキャップを補う機器の利用により、誰もが不便を感じない暮らしを支援します。	分身ロボット	0	0	0	技術や制度について情報収集を進めています。	0	0	1	1-8		
26	AI字幕・翻訳機器の活用	AIによる同時自動字幕・翻訳アプリなどにより、言語や聴覚に障がいのある方や、外国語話者も不便なく日常生活や各種の手続きを行える環境を目指します。	AI字幕・翻訳アプリ	1	2	2	市民課窓口において外国語話者との手続きの際に、翻訳機能付きタブレットを用いて説明をしています。	2	2	3	1-8		
27	オンラインコミュニティの形成	多様な個性を持つ人々が、オンライン上の仮想空間などを活かし、自分に合ったコミュニティなどの居場所を見つけ、参加できる社会を目指します。	インターネット、SNS、メタバース	0	0	0	技術や制度について情報収集を進めています。	0	0	0	1-8		
28	デジタル技術利用サポート体制	デジタル機器に不慣れな人を取り残さないサポート体制が確立し、多くの住民が官民の様々なサービスをオンラインで利用できる社会を目指します。	スマホ教室、スマホ相談窓口	3	3	3	令和3年度より、愛媛県や携帯キャリア会社と協力し、市内各地域（公民館等）でスマホ教室を開催しています。 また、令和6年度においては、聴覚障がい者を対象としたスマホ教室も開催しています。	3	3	3	1-9	https://www.city.imabari.ehime.jp/mirai/sp_workshop/	
29	地元企業へのICT支援、マッチング支援	地元企業のイノベーションをサポートするため、ICT企業やシビックテックとのマッチングを支援します。	サテライトオフィス整備・誘致	3	3	3	県主催の産業立地フェアやマッチングイベント等へ出展し、立地奨励金制度など今治市の現状や施策紹介し誘致活動を行っています。	3	3	3	2-1		今治市まち・ひと・しごと創生総合戦略
30	DX人材の育成	地元企業で活躍するDX人材の育成を支援します。		1	3	3	AI技術等を取り入れ、業務の効率化や省人化・省力化を図ることのできる人材の育成を目的とした講座の開講や、DX推進等の取り組み方法などの相談を行う窓口を設置しています。 また、今治イノベーションコンソーシアム事業において、企業や一般市民向けにセミナー等を行っている他、今治市デジタル未来コンソーシアム事業において、市内事業者向けにDXをテーマとしたセミナーを開催しています。	3	3	3	2-1		地域再生計画
31	ICT・デジタル分野の起業支援	市内でのデジタル分野の起業を支援します。		1	3	3	新たな社会システムの構築に資する先進的な取り組みを行う分野で市内において起業する者に対する補助金の募集を行い、デジタル分野で起業する者の発掘に取り組んでいます。	3	3	3	2-1		地域再生計画
32	デジタルマーケティングの推進	今治の「いいもの」を国内外に売り出すため、CRM（顧客関係管理）の手法を用いてデジタルマーケティングに役立てます。	顧客データ等	1	0	1	顧客データ等のCRM活用について研究を進めています。 また、今治あきない商社において、ECサイト等の顧客データを活用し、今治PR関係のメルマガを配信しています。	1	1	1	2-2		

番号	取組名称	目指す未来像	活用可能な技術等の例	実装 レベル (R4)	実装 レベル (R5)	R6年度現在		実装レベル目標			分野番号	関連リンク	参照する計画等
						実装 レベル	取組状況	R7	R8	R9			
33	バーチャル商店街	いつでもどこでも誰でも今治の雰囲気を楽しみながらショッピングできるバーチャル商店街など、インターネットを活かした新しい商売の形で今治産品を世界に届けます。	メタバース、デジタルツイン（*97）、eコマース	1	1	1	他自治体の事例等を調査・研究しています。	1	1	1	2-2		
34	地域ポイント制度	地域の内外から調達した資金を循環させる仕組みを核として、人、モノ、コトが交わり続ける持続可能な地域の実現を目指す。	地域ポイント、仮想通貨、NFT（*98）	1	1	2	デジタル地域通貨の実証事業を行い、「行政事務の迅速化・費用削減」に加え、「域内消費の活性化」「市民の行動変容」「地域コミュニティ活性化」を促進するための手段として整備することが適当なものであるかなど令和7年度以降の本格導入に向けた検討を行っています。	3	3	3	2-2		
35	人流データを用いたにぎわいづくり	人流データを活用し、人々の属性やニーズを把握し、それらをもとにデザインされた人が集まる価値と理由があるリアルな拠点を整備して、今治のまちなかのにぎわいづくりに役立てます。	人流データ等の分析	0	0	3	中心市街地まちづくりの基本計画となるグランドデザインを策定するにあたり、中心市街地のエリア全体のネットワーク空間特性の指標分析と可視化を行うとともに、現況の人の動き・アクティビティの把握に基づく課題整理・改善に向けた潜在的可能性を検討した上で、空間・施設等の整備計画の内容について、その効果の検証を実施しています。	3	3	3	2-3		
36	交流拠点（シェアスペース）づくり	インターネット環境が整備された交流スペースを整備します。また、広く市民の交流の場とするだけでなく、DXに触れる場としても活用します。	フリーWi-Fiスポット、コワーキングスペース（*99）	0	0	3	コワーキングスペース兼DX・AI人材育成講座等を行う企業を令和5年度に誘致し、広く利用されています。	3	3	3	2-3		
37	公共施設や駐車場混雑状況の「見える化」	公共施設や駐車場、観光施設などの利用状況をリアルタイムでシェアすることで、人の動きを「見える化」し、混雑を回避し、快適な都市空間を作ります。	人流データ、GPS	0	0	0	技術や制度について情報収集を進めています。	0	0	0	2-3		
38	ドローン活用による離島への無人配送	離島でも日用品や医薬品など生活に必要な物資を、島から出ることなく入手できるよう、海を越えるドローン配送を可能とします。	ドローン	2	-	-	番号14「商品や薬の無人配送（市民生活のDX）」へ統合。	-	-	-	2-4		
39	IoT技術を用いた水道施設の効率的な維持管理の推進	水道施設の点検等にドローンやセンサーを活用したり、使用状況のデータを収集・分析することで、効率的な運用・維持管理を目指します。	ドローン、センサー、常時漏水監視システム等	2	2	1	目視が困難な高所の管路点検において、ドローン等を活用した効率的な点検方法を検討しています。	1	2	3	2-5		

※ 実装レベルは、おおむね次の段階を示しています。 0：〇 構想段階 1：🔍 検討中・研究中 2：🔄 試験導入・実証実験中 3：🏡 実施中・展開中

番号	取組名称	目指す未来像	活用可能な技術等の例	実装 レベル (R4)	実装 レベル (R5)	R6年度現在		実装レベル目標			分野番号	関連リンク	参照する計画等
						実装 レベル	取組状況	R7	R8	R9			
40	インフラへのビッグデータ活用	インフラ情報をデータベース化しビッグデータとして、維持管理や防災、減災など市政のさまざまな分野で活用します。	GIS（*100）、都市3Dモデル、維持管理データベース、社会資本情報プラットフォーム	2	2	3	都市計画、景観計画、開発許可、指定道路、街区基準点、市道路線網図、公共下水道管路図、下水道供用開始区域、地形図、公共施設の情報を搭載した、公開型GIS「いまバリエイまっぷ」のサービスを開始し、市民、事業者及び市外からの来訪者に「誰でも」「いつでも」「どこでも」インターネット上で情報を提供することにより、行政サービスの向上と業務の効率化、高度化を図っています。	3	3	3	2-5		
41	公共施設・街路灯へのIoT活用	公共施設や街路灯などにIoTやセンサーを備え付け、防犯や省エネ、人流解析に役立てます。	スマート街路灯（*101）、環境センサー	0	0	0	技術や制度について情報収集を進めています。	0	0	0	2-5		
42	ドローン等を活用したインフラ点検	橋脚や道路、下水道などのインフラ点検や清掃を機械化し、安全かつ低コストで実施します。	ドローン、自走式画像展開カメラ	1	3	3	下水道において、業務委託にて自走式画像展開カメラを実装しています。 道路や橋りょうにおいても導入検討を進めています。	3	3	3	2-5		
43	道路等異常通報システム	道路や河川の危険箇所を市民がオンラインで報告できるようにすることで、迅速な修繕対応を可能にします。市民と行政が一緒になって安全で住みよい街を作ります。	オンラインフォーム	3	3	3	市HP及び市公式LINEを通して、道路等の危険箇所を通報できるフォームを設置しています。	3	3	3	2-5		
44	観光へのVR、デジタル技術の導入	オンラインやVR技術を活用して、今治の魅力を世界に発信したり、現地での観光を楽しんだりできるコンテンツを提供します。	VR、デジタルツイン	0	0	3	県内外イベント出展時において、しまなみサイクリングや村上海賊などの今治の観光コンテンツのVR体験を提供しています。	3	3	3	2-6		
45	観光に役立つスマホアプリ	観光客が個人のニーズに応じた観光スポット紹介や、混雑状況、災害時の避難情報などを受け取れるサービスを提供し、誰もが快適に観光を楽しめるようにします。	観光アプリ	1	2	2	地図アプリMEQQE（めっけ）上で地図情報と連動した観光情報等の提供を行っています。	2	3	3	2-6		
46	観光施設への電子決済導入	市内の観光施設等に電子チケットやキャッシュレス決済を導入します。	電子チケット、キャッシュレス	3	3	3	道の駅など市内主要観光施設においてキャッシュレス決済を導入しています。	3	3	3	2-6		
47	リモートワーク、ワーケーション支援	どこにいても都市部と同様に働ける環境を整備し、今治で働きながら暮らしたり観光したりできるよう、企業のリモートワークやワーケーションの誘致を推進します。	リモートワーク、ワーケーション、オフィスカー	3	1	0	ワーケーション限定の宿泊促進では効果が上がらず、ワーケーションの取組としては事業廃止しています。	0	0	0	2-6		
48	今治ワクワクミリオク100名鑑のデジタル化	今治市職員による「今治ワクワクミリオク100プロジェクトチーム」のメンバーが掘り起こした、本市の知られていない魅力ある産品やサービス等について紹介した冊子を、WEB紙面やアプリコンテンツとしてデジタル上でも展開します。	Ehime ebooks、地図アプリ	3	3	3	Ehime ebooks及び地図アプリMEQQE（めっけ）にてデジタル化し、SNS等で周知しています。地図アプリMEQQEにおいては、担当者が店舗情報の編集作業をタイムリーに行うことが出来るように更新しています。	3	3	3	2-6		

※ 実装レベルは、おおむね次の段階を示しています。 0：〇 構想段階 1：🔄 検討中・研究中 2：🔄 試験導入・実証実験中 3：🎯 実施中・展開中

番号	取組名称	目指す未来像	活用可能な技術等の例	実装 レベル (R4)	実装 レベル (R5)	R6年度現在		実装レベル目標			分野番号	関連リンク	参照する計画等
						実装 レベル	取組状況	R7	R8	R9			
49	i.imabari!デジタルツアー (ライブコマース)	ライブコマースによって、一次産品のみならず、工業製品やコト体験サービスなどをPRし、販売促進とシティプロモーションが一体となった情報発信を行います。	デジタルプラットフォーム上でのライブ動画配信サービス	2	3	3	関東圏でのイベント出展に合わせ、秘書広報課と連携したライブコマースで、今治市及び柑橘や今治タオル等地域産品のPRを行っています。	3	3	3	2-6		
50	デジタル移住先進地	バーチャル移住体験やデジタルコンテンツによる移住情報発信により、移住希望者に効果的にアプローチする、日本有数の移住先進地を目指します。	バーチャル移住体験、電子書籍	1	1	3	令和5年度に制作した移住定住促進動画「今治時間で、生きていく。」のコンセプトを促進するため、令和6年度において新たにPR動画を2本制作のうえ、動画配信サイトにて広告配信しています。また、同じく令和5年度に制作したガイドブック「わたしの今治時間」をデータリパイスのうえ市移住ポータルサイト内に電子書籍形式で掲載しています。	3	3	3	2-7		
51	スマート農林水産業の推進	農林水産業の現場にドローンやセンサー、自動運転などの技術を導入し、生産者の負担を軽減し、生産性を向上させます。	農業センサー、自動運転、ドローン、AI、自動除草機	2	2	3	上浦地区再編復旧園地において、スマート農業の推進拠点の確立を目指し、リモコン式草刈機の導入を支援しています。	3	3	3	2-8		
52	デジタル技術によるノウハウの伝承	経験が求められる農林水産業の現場においても、デジタルを活用したノウハウ伝承により新規参入者の生産性を向上させ、収入の安定と新規就労者の増加を目指します。		0	1	1	今治市・農業協同組合・市内企業の共催で、農業DX人材育成に係る研修会を実施しています。	1	2	3	2-8		
53	AIによる災害危険予測	国や県と連携し、既往災害のデータや地形情報などから、AIが災害の発生や被害の規模範囲、安全な避難経路などを予測することで、住民を被害から守ります。	AI、ビッグデータ	0	0	0	危険予測の精度によっては、目的と相反して住民の不安を煽ることになりかねないため、実施方法等について模索しています。	1	1	1	2-9		
54	ドローンやIoTによる災害状況把握	災害発生時にはドローンやIoT機器など多様な媒体から災害情報を早期に把握、可視化して、的確な対応が取れる体制を構築します。	ドローン、IoT機器	2	2	3	消防ドローンを増機し、消防ドローン隊による迅速で効果的な救助活動の体制を構築しています。また、災害発生時に迅速な情報共有を図るため、衛星Wi-Fiを整備しています。	3	3	3	2-9	https://www.city.imabari.ehime.jp/shoubou/info/002/	
55	SNSによる災害情報収集・発信	SNS分析により災害情報を収集し災害対応に役立てるほか、SNSで災害に関する情報を発信します。	LINE	1	3	3	気象警報発表時等を受け、災害対策（警戒）本部設置時は、市LINEでの災害広報を実施しています。また、令和6年度にはマイタイムライン作成機能をリッチメニューに実装しています。	3	3	3	2-9	https://city-imabari.secure.force.com/	
56	見守りカメラによる子供の安全確保	防犯カメラや見守りカメラを活用し、地域や通学路、子どもの安全を確保します。	防犯カメラ、IoT機器	1	1	1	今治市防犯協会が自治会に対し防犯カメラの設置補助を行っており、地域の安全作りに連携して取り組んでいます。	1	1	1	2-9		
57	車両走行情報による生活道路の安全対策	公用車などの車両にセンサーやカメラを搭載し、道路の危険箇所情報をいち早く収集・把握して、生活道路の安全対策に役立てます。	車載カメラ、振動センサー	1	2	3	民間車両に車載カメラを設置することによるAIを用いた道路損傷検知システム事業を実施しています。	3	3	3	2-9		

※ 実装レベルは、おおむね次の段階を示しています。 0：○ 構想段階 1：🔄 検討中・研究中 2：🔄 試験導入・実証実験中 3：🏆 実施中・展開中

番号	取組名称	目指す未来像	活用可能な技術等の例	実装 レベル (R4)	実装 レベル (R5)	R6年度現在		実装レベル目標			分野番号	関連リンク	参照する計画等
						実装 レベル	取組状況	R7	R8	R9			
58	緊急防災情報伝達システム	ハザードエリア居住者の把握を行うことで個人別の災害対策を実現し、災害情報をいち早く市民へ伝えるため、防災無線や携帯電話、テレビ、コミュニティFMラジオ、SNSなど多様なメディアを通じて一括伝達を行います。	同報系防災行政無線、緊急告知ラジオ、災害情報管理システム、SNS	2	3	3	同報系防災行政無線やコミュニティFMラジオ等の媒体を通じて災害情報を周知する体制を確立しています。	3	3	3	2-9	https://www.city.imabari.ehime.jp/bousai/kinkyubousai/	
59	Web版防災マップ	総合防災マップWeb版を作成し、PCやスマートフォンから容易に災害別の危険箇所等が閲覧できるようにします。		3	3	3	今治市ホームページにて閲覧可能な総合防災マップWeb版において、愛媛県が新たに解析した4水系の洪水に関するハザードを追加しています。	3	3	3	2-9	https://city-imabari.secure.force.com/P_PUB_VF_KakudaiMap	
60	行政手続きのオンライン申請	24時間いつでも、どこからでも手続や相談を行えるよう、オンラインでの申請・手続きの環境を整備します。	オンライン申請サービス	1	3	3	「今治でのひら市役所」の掲載手続数を更に拡大するとともに、RPA・AI-OCRや各業務システムとの連携により、フロントヤードからバックヤードまで一気通貫で処理できる業務フローを構築しています。また、「今治市手続きナビ」の利用促進により、住民窓口の多様化を図っています。	3	3	3	3-1		
61	「書かない窓口」「待たない窓口」	窓口での手続きに申請書の記入を不要とし、市民の負担を軽減する「書かない」窓口の導入を進めます。また、窓口の混雑状況を見える化して混雑を緩和し、「待たない」窓口を実現します。	人流データ、マイナンバーカード、びったりサービス（*102）	3	3	3	「書かない」窓口システムにかかる申請書の項目数を増やしています。また、引き続き、窓口の混雑状況や呼び出し番号をオンラインで確認できるようにしています。	3	3	3	3-1	https://www.city.imabari.ehime.jp/siminka/info/kakanai/	
62	AIによる問い合わせ対応	定型的な問い合わせに対してはAIが文字や音声によるチャットで24時間対応することで、住民の利便性を向上させると同時に、職員はより重要度の高い相談などに注力できるようになります。	AIチャットボット・生成系AIの学習機能	2	2	2	今治市HP上で24時間対応可能なチャットボット（文字）を運用しており、利用ログを精査し機能向上に取り組んでいます。	3	3	3	3-1	https://ehime.public-media.com/webchat/city_imabari/	
63	生活困窮者自立支援事業のデジタル化	従来の対応方法(窓口、電話、メール)では拾い上げることができない困りごとを、オンライン通話や相談アプリなど多様な方法で把握し、支援できるよう努めます。	メタバース(仮想空間)相談、家計診断アプリ、適職診断アプリ	0	0	1	技術や制度について情報収集を進めています。	1	1	2	3-1		
64	クロスメディアによる情報発信	広報誌などの既存の手段に加え、SNSや動画配信サービスなどの身近なデジタルサービスを通じて親しみやすくわかりやすい情報発信を行います。	SNS、動画配信サービス	3	3	3	戦略的情報発信プロジェクトを立ち上げ、新たなデジタルサービスを活用した情報発信を行うとともに、既存の発信サービスでの発信方法についても発展的に検討しています。また、職員に本プロジェクトを浸透させるとともに、全庁的な広報のジブングト化を図っています。	3	3	3	3-2		

番号	取組名称	目指す未来像	活用可能な技術等の例	実装 レベル (R4)	実装 レベル (R5)	R6年度現在		実装レベル目標			分野番号	関連リンク	参照する計画等
						実装 レベル	取組状況	R7	R8	R9			
65	必要な相手へのプッシュ型情報発信	世代等に応じた住民一人ひとりのニーズにあった情報やサービスをプッシュ型で提供します。	LINE	0	3	3	LINEを活用した情報発信の拡充のため、LINE管理ツールの最適化を検討、新ツールを実装しています。	3	3	3	3-2		
66	BPR（業務改革）の実施による業務プロセスの最適化	事務作業の効率的なデジタル化のため、業務の最適化や、複数の課にまたがる手続きの整流化などを行います。	BPR、RPA、オンライン申請システム	0	2	3	オンライン申請システムやRPA等のデジタルツール利用にあたり、データ成型やシステム入力、システム間連携、帳票発行といったバックヤード処理を一気通貫で処理できる業務フローを構築する取組みを実施することで、業務プロセスの最適化を加速化させ、更なる住民利便性の向上及び行政事務の効率化を図っています。	3	3	3	3-3		
67	AI-OCR*、RPAを活用した事務効率化	職員が手作業で行っている事務処理や作業にAI-OCR、RPAなどを活用し、プロセスの自動化、省力化を行い、業務の生産性を向上させます。	AI-OCR（*103）、RPA	2	3	3	これまでの取組を発展させ、RPA・AI-OCRとオンライン申請システムや各業務システムとの連携により、フロントからバックヤードまで一気通貫で処理できる業務フローを構築し、事務効率化を推進しています。	3	3	3	3-3		
68	標準化モデル（*104）への移行	国の主導により、地方自治体の情報システムの標準化を推進し、住民サービスの最適化を迅速に進めます。	ガバメントクラウド	1	1	1	国の方針に基づき、令和7年度までにガバメントクラウドを活用した標準準拠システムへの移行を目指し、検討を進めています。	3	3	3	3-3		
69	スマート市議会の推進	今治市議会にてタブレットや電子資料を活用し、ペーパーレスでスマートな議会運営を進めます。	グループウェア、チャットツール、PDFビューアー	2	3	3	一部の委員会では完全ペーパーレスを実現しています。 また、重要度の低い書類の配布について、議員控室への紙媒体での掲示を最小限とし、原則データ配信とするよう改善しています。	3	3	3	3-3		
70	ため池遠隔監視システムの導入	ため池の水位をセンサーで遠隔把握し、豪雨時や地震後に安全かつ迅速に状況把握できるようにします。また、日常の水位管理の省力化、併せて渇水時の貯水量管理にも活用が可能となります。	測位サービスを用いた水位計、水位監視システム	1	1	3	クラウド型ため池水位計・クラウド型監視装置（端末）を実装済みです。 水位監視装置の設置箇所を増設し、水利・治水施設の運用実態や時間軸での水位変動等の見える化（データ蓄積）を進めています。	3	3	3	3-3		
71	市税等支払いへの電子決済の導入	市税等をキャッシュレスで24時間いつでも支払える仕組みをつくることで、市民の利便性を高め、徴収率の向上を目指します。	キャッシュレス決済、QRコード決済	3	3	3	固定資産税・軽自動車税のeI-TAXでの支払い方法を導入・運用しております。 また、標準化システムへの移行に向けて、市県民税・国民健康保険税のeL-TAXでの支払い方法の導入検討を進めています。	3	3	3	3-4		今治市行政改革ビジョン
72	市職員の多様な働き方の推進	テレワークやサテライトオフィスなど、多様な働き方を推進します。	テレワークの実施	3	3	3	テレワークパソコンの配布台数を増加するとともに、テレワーク用スマートフォンの貸出を引き続き実施しています。	3	3	3	3-4		

※ 実装レベルは、おおむね次の段階を示しています。 0：○ 構想段階 1：🔄 検討中・研究中 2：🔄 試験導入・実証実験中 3：🔄 実施中・展開中

番号	取組名称	目指す未来像	活用可能な技術等の例	実装 レベル (R4)	実装 レベル (R5)	R6年度現在		実装レベル目標			分野番号	関連リンク	参照する計画等
						実装 レベル	取組状況	R7	R8	R9			
73	ペーパーレス化の推進	書類の電子化を進め、令和6年度までに令和4年度比40%減の用紙削減を進めます。	電子決裁システム、文書管理システム	2	3	3	実装済みである文書管理・電子決裁システムの他、財務伝票の電子化の試行運用を開始しています。 (令和6年度末時点での事業進捗：17%)	3	3	3	3-4		
74	スマートオフィス化の推進 (オフィスの改善)	集中ブースや交流スペース、ウェブ会議ブースなど、時代に合わせ職員の生産性を上げるオフィスを構築します。	集中ブースや交流SPなど多様なオフィス	1	1	3	サテライトオフィスを継続しつつ、集中ブースの利用も可能とし、多様なオフィス形成に向け取り組んでいます。 また、第2別館13階に可動式パーティションを導入し、会議や交流スペースとしての活用しています。	3	3	3	3-4		
75	スマートオフィス化の推進 (内線電話の改善)	フリーアドレス(*105)の推進と合わせ、内線電話をスマートフォン化することで、場所にとらわれず働ける職場を作ります。	スマホ内線	2	2	2	未来デジタル課の一部で実験導入中です。 現状、内線設備が備わっているIP多機能電話に依存している部分が大きいため、全体的な実装には至っていません。	2	2	2	3-4		
76	スマートオフィス化の推進 (勤退管理の改善)	市の職員証をICカード化し、出退勤管理をデジタル化して、適正な労務管理とワークライフバランスの推進に役立てます。	職員証のICカード化、出退勤管理のデジタル化	1	1	1	関係各課と調整し、勤怠管理システム等の導入に向けた検討を進めています。	2	3	3	3-4		
77	スマートオフィス化の推進 (働き方の改善)	改築や建替などのタイミングで、オフィスの無線化を進め、フリーアドレスで仕事のできる環境を整備します。	オフィスの無線化、フリーアドレス化	1	2	3	庁内において、無線対応しているパソコンの配布を進めており、会議等にもパソコンの持ち込みが可能となっています。	3	3	3	3-4		
78	マイナンバーカードの普及	令和5年度末までに、マイナンバーカードの普及率を75%にし、誰もがマイナンバーカードを用いて行政手続き等を便利に行えるようにします。	マイナンバーカード	2	3	3	令和7年3月末現在の交付率：91.62%	3	3	3	3-5		
79	行政データ・企業データの共同利用	データ連携プラットフォームの整備により、匿名化された行政データや企業データを安全に一元化し、集約されたデータを利活用したアプリやサービスの展開を行います。	オープンデータ、都市OS、データ連携プラットフォーム	1	1	1	技術や制度について情報収集を進めます。	1	2	2	3-5		
80	オープンデータの公表	今治市が保有する統計データを公表することで、地域の企業などが自由に活用できるようにします。また、将来的には行政手続き等をデジタル化することで、活用可能なデータが自動的に作成される仕組みを目指します。	オープンデータ	2	2	3	今治市の統計に加え、携帯性を持たせ出張先でも市の主要データをコンパクトに相手に見せることができるポケット統計を公開しています。	3	3	3	3-6	https://www.city.imabari.ehime.jp/opendata/	

番号	取組名称	目指す未来像	活用可能な技術等の例	実装 レベル (R4)	実装 レベル (R5)	R6年度現在		実装レベル目標			分野番号	関連リンク	参照する計画等
						実装 レベル	取組状況	R7	R8	R9			
81	EBPM（客観的エビデンスに基づく政策立案）の推進	エビデンスに基づく政策立案を行います。また、そのために職員のデータの利活用スキルを向上させます。	オープンデータ、RESAS（リーサス）、将来人口推計、人流データ	1	1	1	ワーキンググループを設置し、SROI等の分析手法について委託業者からのアドバイスを受けながら学習を行っています。学習した評価手法を用いて実際の事業をサンプルに検証したり、令和7年度の活用を前提とした政策評価シートのプロトタイプを作成しています。	2	3	3	3-6		今治市人口ビジョン（令和7年3月改訂）
82	公共施設への公衆Wi-Fiの設置	公共施設などに公衆FreeWi-Fiを設置し、災害時やイベント時に活用します。	Wi-Fi	2	2	3	鴨池海岸公園、西部丘陵公園、児童クラブ等にWi-Fi設備を整備しています。 また、災害発生時に迅速な情報共有を図るため、衛星Wi-Fiを整備しています。	3	3	3	3-7		
83	市内のどこでも高速回線を利用可能	地域によって情報格差が生じないよう、市域のどこでも高速回線を利用可能な環境の整備を推進します。	5G、高速通信回線	2	2	3	新規整備した超高速インターネット回線整備エリアにおいて、光ファイバー回線の周知・説明会を実施しています。	3	3	3	3-7		高度無線環境整備推進事業における光ファイバ整備計画及び無線局開設計画
84	農林業現場でのLPWA活用	農林業などの現場にLPWA（低消費電力で長距離の通信）を導入し、現場の負担を軽減して生産性を上げるスマート農林業を目指します。	LPWA	0	0	0	技術や制度について情報収集を進めています。	1	1	1	3-7		
85	職員DX人材の育成	デジタル技術の進歩に応じ、デジタルに関する知識やスキルを有する職員を育成します。	eラーニング、DX研修	1	1	3	職員のDXリテラシー向上及びデジタル技術の習得を目的として、外部DXアドバイザーによるDX職員研修を実施するとともに、市内企業が開催するDX人材育成講座を受講する職員の支援を行っています。 また、導入しているデジタルツールの操作研修会も実施しています。	3	3	3	3-8		
86	アジャイル型業務改善の推進	研修やOJTを通じて、DXに必要な変革マインドを持った職員の育成に取り組みます。また、従来の職員提案制度を見直し、アジャイル型の業務改善を推進します。	eラーニング、DX研修	0	2	2	スマート業務改善の取組みによる効果を取りまとめ庁内共有するとともに、各課の改善内容および改善効果を集約したデータベースを構築し、職員がいつでも閲覧・参照できる環境を整備しています。 また、豊富な行政実務経験と民間知見を有する人材にDXアドバイザーを委嘱し、階層別のDX研修の実施により、職員のリテラシー底上げ及びマインドセットを図っています。	3	3	3	3-8		
87	職員へのリカレント教育（学びなおし）の推進	時代に合わせて必要とされる知識や技術を取得を推進するため、職員のリカレント教育（学びなおし）に関する制度を整備します。	eラーニング、DX研修	3	3	3	デジタルに限らず、職員に対して資格取得制度を設け、新しい知識や技術取得を支援しています。	3	3	3	3-8		

番号	取組名称	目指す未来像	活用可能な技術等の例	実装 レベル (R4)	実装 レベル (R5)	R6年度現在		実装レベル目標			分野番号	関連リンク	参照する計画等
						実装 レベル	取組状況	R7	R8	R9			
88	庁内情報セキュリティの向上	庁内における情報セキュリティや個人情報保護を、ソフト、ハードの両面から徹底します。	EDR（Endpoint Detection and Response）	3	3	3	EDRの安定稼働に努めています。	3	3	3	3-9		「地方公共団体における情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」
89	サイバー犯罪防止やインシデント対策	今治市の取り扱う情報や、管理するシステムについて、サイバー犯罪の防止やインシデント対策を適切に講じます。		3	3	3	情報セキュリティ外部監査での指摘事項の改善に取り組むことで、全庁的なセキュリティ対策の向上を図っています。	3	3	3	3-9	https://www.city.imabari.ehime.jp/mirai/CSIRT/	サイバーセキュリティ基本法第5条
90	情報モラル向上の取組	市民や企業の情報モラル、ICTリテラシーの向上を目指す取組を継続的に実施し、誰もが安心してデジタルの恩恵を受けられる社会の実現を目指します。	スマホ教室、デジタル未来コンソーシアム	1	2	3	スマホ教室を通じた市民の情報リテラシー向上を支援するとともに、デジタル未来コンソーシアムDX勉強会を開催し、市内企業等のデジタル力の底上げを図っています。	3	3	3	3-9		
91	介護認定手続きのデジタル化	介護認定審査会の資料を電子化、オンラインでの審査会開催をし、ペーパーレス化及び事務の効率化を図る。また申請から認定結果が出るまでの期間短縮を図ります。			1	-	番号7「介護認定手続きのデジタル化」へ統合。	-	-	-	1-2		
92	消防指令システム等の高度化	ヒューマンエラーを防止するため、先端技術を導入し、24時間365日安定稼働する消防指令システムを構築します。また安全なネットワークを経由した連結体制の充実強化を図り、リアルタイムで情報を共有できるサブシステムを連携させます。救急需要の増加や、局地的及び基大化する自然災害への消防活動を迅速・的確に行い、住民サービスを停滞させることなく市民の生命、身体、財産を守ります。	119番通報時の音声ログの画面表示、AIによる災害種別等の判断アシスト及び聴取内容の抜け防止、大規模災害の119番通報に対応する事案管理、消防指令システムと連携するサブシステム（映像転送・情報共有・消防業務システム等）		1	1	消防指令システム等整備基本計画策定業務を通じて、最新技術を用いて各種災害に対応できる消防指令システム構築等に向けた調査・検討を進めた。	2	3	3	2-9		
93	移動市役所の運行	マルチタスク車両を用いて、市役所本庁、支所から遠い場所に住む住民がアクセスしやすい場所まで車両が訪問し、行政サービスを届ける移動型行政サービスの仕組みを構築します。	手続きナビ、マイナンバーカード		3	3	オンライン相談・証明書の交付・マイナンバーカード新規申請等に対応している移動市役所を運用しており、提供サービスの追加（税関係の証明書発行に対応）及び巡回先の見直しを行い、機能向上を図っています。	3	3	3	3-1	https://www.city.imabari.ehime.jp/maas/	
94	救命講習受付業務のオンライン化	受講を希望する市民が、都合の良い時間帯に都合の良い開催日を選び、申込ができ、受講日前に自動でリマインドされ、受講日には、当日受付～修了証の発行まで職員の手を介すことなく手続きが完結します。	LINEを活用した予約システムの活用		1	1	LINEを活用した予約システムを構築している京都市消防局の事例を基に、事業者と相談を行い、令和7年度に実施できるよう検討を図っています。	3	3	3	3-3		

番号	取組名称	目指す未来像	活用可能な技術等の例	実装 レベル (R4)	実装 レベル (R5)	R6年度現在		実装レベル目標			分野番号	関連リンク	参照する計画等
						実装 レベル	取組状況	R7	R8	R9			
95	子育て情報の集約・発信	子育て中に必要な情報が、オンラインで簡単に得られます。	SNS、ポータルサイト、オンライン申請			1	いまばりネウボラ公式Instagramアカウントを開設し、情報発信を行っています。 また、子育て情報を集約したポータルサイトの作成を検討しています。	2	3	3	1-3	https://www.city.imabari.ehime.jp/neuvola/kodomokeikaku/	今治市こども計画
96	子どもの発達支援	AIやウェブサービスを活用し、さまざまな特性のある子に必要なサポートを行います。	WEB問診票			3	子どもの特性を就学前に発見し、適切な支援を行うため、5歳児対象にWEB問診を用いたアセスメントを行っています。	3	3	3	1-3	https://www.city.imabari.ehime.jp/neuvola/kodomokeikaku/	今治市こども計画
97	地方創生SDGsの推進	デジタルプラットフォームを構築し、産官学ステークホルダー間でSDGsに関する活動の情報発信や成果の共有、ステークホルダー間の連携、交流が可能となり、地域SDGsを推進します。	オンラインデジタルプラットフォームサービス			3	産官学ステークホルダー間でSDGsに関する活動の情報発信や成果の共有、ステークホルダー間の連携、交流が可能であるデジタルプラットフォーム「いまばりSDGsネット」を作成・公開しています。	3	3	3	1-8	https://www.goodcity.jp/city.imabari/	
98	被害認定調査支援システムの構築	南海トラフ巨大地震等の大規模災害に備え、住家の被害認定調査支援システムを県内他市町と共同して構築することで、被災後に必要となる罹災証明書の発行に要する時間の短縮を図ります。	防災ダッシュボード、GIS、BIツール、マイナポータル			1	災害に係る住家の被害認定調査支援システムの翌年度導入を目指し、県・連携市町と検討を進めています。	3	3	3	2-9		

※ 実装レベルは、おおむね次の段階を示しています。 0：○ 構想段階 1：🔄 検討中・研究中 2：🔄 試験導入・実証実験中 3：🚀 実施中・展開中